



創設100余年の学園が取り組むキャンパス再編

未来への新機軸は 「現場主義教育」

「短大50周年記念事業」は、未来への布石

仏教精神を基軸に総合学園へ発展。
今また、短大50周年が再編の始点に

京都文教学園は、1904年に、京都・法然院の獅谷佛上人の発願により、仏教精神に基づいて女子教育を行う高等家政女学校(現在の京都文教中学校、京都文教高等学校の前身)として創設されました。その後1960年に、高等学校の教育をより充実発展させた、家政学園短期大学を開学しました。1967年、宇治キャンパスへ移転完了し、1980年に名称を現在の京都文教短期大学に変更しました。その間に短期大学附属家政城陽幼稚園、短期大学附属小学校を順次開設し、1996年に京都文教大学を開学しました。こうして幼稚園から大学と大学院を設置する総合学園へと発展しました。現在、短大はライフデザイン学科(2011年に新設)・食物栄養学科(2011年に名称変更)・幼児教育学科の3学科編成で、大学は人間学部(2012年総合社会学部に名称変更予定、文化人類学科・現代社会学科)と臨床

心理学部(臨床心理学科)の2学部3学科編成で教育・研究を行っています。

宇治キャンパスへ移転して、40年以上が経ちます。この間には、短大の再編や大学の開学などがありましたから、様々な施設が各所に建てられました。現在、建物の老朽化対策が重要課題となり、キャンパスの再構築を進めています。こうした状況下で2010年、短大と大学の共用施設である月照館とサロン・ド・パドマを、短大50周年の記念事業として新設しました。月照館は浄土宗の宗歌「月かげの歌」と、建設地にあった旧月影寮から名を取りました。また、サロン・ド・パドマも同じく以前あって、学生に親しまれていた保護者会寄贈の建物名を引き継いだものです。「パドマ」とは「蓮の花」という意味です。

充実した短大の実習・実験の場であり、 新たな教育・研究の拠点 -「月照館」

総合教育実習及び研究棟「月照館」は、キャンパス内に散在していた短大の実習・実験教室や教員の研究室を集約する目的で、新設

京都文教学園は、創設100余年の歴史を持ち、2010年に短大開学50周年を迎えた。それを機に宇治キャンパス再編の一環として、総合教育実習及び研究棟「月照館」と、学生の憩いの場「サロン・ド・パドマ」を新設した。短大と大学の目指す新しい教育方針は、「地域との連携を重視し、人間を見つめ、実践を通して学ぶ現場主義教育」。その源は、建学の精神「謙虚にして真理探究・誠実にして精進努力・親切にして相互協同」および学訓「響きあうところ、生かしあういのち」に在る。短大と大学の新たな学びを推進するために、2つの新施設には、どのような環境づくりがなされているのだろうか。両施設を紹介しながら、未来のキャンパス像にも触れていきたい。

されました。これによって学生も先生も移動に時間を取られず、学びに集中できるようになりました。一番の収穫は、私たちが大事にしている学生と先生の距離が近くなったことです。さらにオフィスアワーを設けて相談しやすくなりました。実習指導室も利用者が増えています。短大生にとっては1回生の前期が大切で、先生や指導室のアドバイスが退学防止につながるのです。また、実習・実験の環境については、現場主義教育を実践するにふさわしい、高度でリアルな最新の設備・機器等を採用しています。こうした環境で実習することにより、学生たちは職場へよりスムーズに入っていけるようになります。

1階に開設した子育て支援室「ぶんきょうにこにこルーム」は、乳幼児とその親に一般開放され、地元きたまさしまの北横島地域協議会、宇治市、短大・大学の民・官・学が連携し運営されています。以前から幼児教育学科の学生たちは地域の子育て支援に関わっており、市から学内設置を要望されていましたが、既存の普通教室では、設置基準の関係で子育て支援室が作れませんでした。今回の新設に合わせて、ようやく学内に作る事が実現したのです。

オフィスアワー：学生が先生の研究室を訪問し、質問や相談ができる時間

INTERVIEW

京都文教短期大学
学長
安本 義正 氏
(右側)

京都文教学園
理事 / 法人事務局長
仁科 周朗 氏
(左側)



学生の憩いの場であり、 自由に使える活動拠点 -「サロン・ド・パドマ」

学生サロン「サロン・ド・パドマ」は、主に、学生が食事や休憩など自由に使える場所を増やす目的で新設されました。京都市郊外にある宇治キャンパスは、約81,000㎡の広大な敷地に、短大・大学・大学院合わせて3,000人近い学生が在籍しています。現在の食堂や休憩スペースは十分とは言えませんでした。この「サロン・ド・パドマ」は、学生の食事や休憩の他に、教育活動および地域や大学のイベントなどにも使えるように、広く開放的な無柱空間としました。変化のない四角平面ではなく、18×18mの3つの正方形を1グリッド(9×9m)ずつ雁行させてコーナーを設けました。これは、自分の世界を持ちたい学生心理に配慮したものです。また、パーティションで隔てたせみコーナーも用意しています。

芝生が周囲に配され枝垂れ桜と多くの緑の樹木に囲まれて、キャンパスを見通せる広いガラス面から建物内外の境界を越えて広がる、開放的な空間が創出されています。



「現場主義教育」は、新たな教育の機軸

新・現場主義教育 ① ありのままの親子に接して、社会人を養う

短大は、2010年に月照館内に「子育て支援室」を設置して、親子支援を中心に地域と協働で企画・運営を始めました。現在は、2001年から活動してきたエクステンションセンターを「地域連携室」と名称



子育て支援室

変更し、2011年から場所を月照館内に移し、子育て支援や公開講座等に即対応できる体制に移行しました。子育て支援室では、授業や実習等で忙しい幼児教育学科の学生が、支援室を訪れる親子と触れ合うことができます。親の観察ができることは、主に子どもを対象とする幼稚園・保育園の実習とは大きく違います。ここでは、親の子どもへの接し方や言葉使い、親の悩みなど、お母さんたちの生の姿が見られます。学生は、こうした現場体験をすることで、今までと違う面の成長をします。現在は月曜～金曜までの5日間、10時～17時まで、多くの親子が、時には祖父母まで三世代が利用しています。また同じ階にある給食管理実習室では、学生が幼児向けの食事を作ることができますので、衛生上の問題などがクリアされ、いずれは、来館する親子に提供できればいいと考えています。

短大と大学が、それぞれの特徴を生かしつつ、近年急速に進化した、地域や行政との連携を深めていきたいですね。こうした現場での実践における「五感を使ったフィールドワーク」は、学生の社会人としての基礎力やコミュニケーションを養う大切な教育の場であると思います。

新・現場主義教育 ② 地域から学び学究へ活かす

2007年、大学の取り組み「現場主義教育充実のための教育実践～フィールドワーク教育～」が特色GPに採択されました。それを推進するために、窓口として「フィールドリサーチオフィス」を設置し、地域と大学の交流拠点であるサテライトキャンパスの運営・管理をしてきました。サテライトキャンパスは宇治市と京都市の商店街に3ヵ所設けられています。学生たちは協働で、商店と市場調査やマーケティング、商品開発、販売を行ったり、旅行会社と修学旅行の高校生の体験学習支援をするなどしています。またオフィスの職員に鶴匠をしている女性を採用し、観光面でも地域との連携を進めています。こういった成果は文化人類学科のカリキュラムに反映され、2008年に採択された教育GP「文化コーディネーター養成プログラム～モノ・ひと・地域を活かす大学ミュージアム～」に繋がりました。



新・現場主義教育 ③ 継続し実績を残すことで、社会的認知を得る

地域との連携協力事業は、継続し実績を残して社会から認知されることが大事だと思います。そのためには財政基盤も重要です。宇治市の委託事業である子育て支援室は、今年、NPO法人としての組織化を予定

しています。また、京都府から2010年に受託した「ワーク・ライフ・バランス 地域推進事業」は、子育て支援とも密接な関係があり、子育て世代などの調査・提案・実践によるモデル事業として進めています。今年中に地域の方と学外に、親も子どもも便利に安心して利用できる「親子カフェ」を開業して、この事業の拠点にしたいと考えています。4つ目のサテライトキャンパスに位置付けできるといいですね。

ワーク・ライフ・バランス：仕事と生活の調和と訳され、男性も女性もやりがいを持って仕事をすると同時に、充実した家庭生活を人生の各段階に応じて実現するという取り組み

基本姿勢は不変、環境づくりは不断

今後も、社会の求めに応えと同時に、独自性を重視した人材育成を

短大の社会的な使命について、次の2点を同時に実践していくことが重要だと考えています。1番目は、現代の社会からの求めに応じた人材育成。2番目は、本学の独自性を重視した人材育成。この考え方の是非は、短大の就職決定率がいつも95%を超えることで実証されているのではないのでしょうか。

使命の2番目については、2010年から短大で、建学の精神の具現化の一環として「自校を学ぶ」の開講と授業開始前の「黙想」を実施しています。必修科目「自校史を学ぶ」は、仏教系学園として大事な建学の精神を、学生と先生の双方に涵養することを目的としています。全ての先生が後期半年間、自分の授業のなかで自身の言葉にして学生に伝えます。本学の3大教育理念は「謙虚」「誠実」「親切」ですが、例えば食物栄養学科では、「生きものの、いのちをいただくという謙虚さ」を教えることもできるでしょう。学長も「自校史を学ぶ」講座を受け持っています。仏教では「気づき」の精神が大事だと考えていますので、フィールドワークは、「キャンパス内で気づいたことやものを、写真と100文字で学長のパソコンへ送ること」にしています。また「黙想」は、スタイルは自由で30～60秒間だけ無言の時間をもつというものです。

これからのキャンパス整備は、施設や組織づくり、そして人的な環境づくり

そのほか、キャンパス内の施設整備としては、短大・大学・大学院と3つに分散する図書館の統合が、重要な仕事として残っています。それぞれ専門性はありますが、情報の関連性や重複を考えると、図書情報センターとして集約した方がよいと考えています。そうすれば学生や先生には使いやすいですし、集約することで管理の余裕ができれば、開館時間を長くして地域の方にも利用していただけます。

これは夢になるかもしれませんが、近鉄の向島駅から宇治キャンパスまでのキャンパスロード「街と大学を結ぶアーケード」ができれば、地域ともっと近くなるのではと思っています。

また、「どの先生も学生の相談を気持ちよく受けることができる」「どの職員に聞いても行きたい場所をきちんと教えてくれる」といった「当たり前」のことを当たり前でできる「ような教職員の意識改革をもっと進めていきたいですね。施設や組織づくりはもちろん重要ですが、人的な環境づくりも大事なことでと考えています。

月照館

それまで点在していた実習室や研究室を一つに集約した総合教育実習及び研究棟。地上5階建てで、主に短大で使用する調理、音楽、美術系の各種実習室や実験室のほか、体育室や地域に開放した子育て支援室もある。高度で専門的な最新の設備と実際の施設と同様の環境を備えた現場主義教育の実践拠点。



短期大学の学科構成

ライフデザイン学科

生活に関わる「食生活」「ファッション・アパレル・造形」「住まいと暮らし」「福祉・医療」「健康・スポーツ」の5分野から、1～複数分野を選択して学習。

食物栄養学科

生涯の健康的な食生活をサポートするために、栄養士の免許取得必修科目や、栄養教諭やフードスペシャリストの資格取得に繋がる科目を学習。実習・実験を重視。

幼児教育学科

子どもの自立をサポートできるよう、発達心理学や保育者論などを学習し、音楽や造形の授業で感性や創造力を身につける。体験・実習を重視。

各階の教室配置

5階	造形室、研究室、会議室
4階	音楽演習室、造形室、研究室、地域連携室
3階	実験室、音楽演習室、幼児教育実習室、インテリアデザイン室、実習指導室、研究室
2階	一般調理実習室、栄養指導室、リトミック演習室、運動生理学室、研究室
1階	給食管理実習室、リズムレッスン室、研究室、体育室、子育て支援室



給食管理実習室の厨房



試作室 / 調理台、収納棚、作業テーブル ほか
給食管理実習室に隣接した教員用の調理室。研究室ともつながる。



給食管理実習室の更衣室 / 白衣殺菌保管庫、テーブル：CTN2、ロッカー ほか



エアシャワー
厨房のプレールーム。入室前の除塵を行う。



給食管理実習室(1F) / テーブル：DT-P2、イス：リシオリーナ、展示ケース(特注品)、不純物をろ過するRO水生成装置、トレーディスペンスー ほか
給食の試作と試食、講義を行う実習室。100食規模をまかなえる専用の厨房を備え、配膳室も完備。試食エリアは102席を確保し、講義用にホワイトボードやプロジェクターも備える。



一般調理実習室(2F) / 調理台、各種棚、冷蔵庫、レンジ ほか
2部屋あり、化粧の異なる調理台を採用している。調理台は
ホームユースの特注品。それぞれに準備室と試食室を備える。



手元カメラと
ディスプレイパネル
教員の手元を映し、
モニターで見やすく
表示。フルHD方式
の液晶ディスプレイ
を採用している。



試食室 / テーブル:DT-30、イス:ルッシュ、食器戸
棚 ほか



音楽演習室(3F) / 電子ピアノ、イス、収納棚 ほか



音楽演習室(4F) / デスク:SCM-700、イス:ルッシュ ほか
主に声楽で使用し、デスクは移動と収納ができるように、キャスター付の天板フラッ
プタイプを採用。

家具・什器・専門機器類の 導入から施工、移設まで、トータルコーディネート。

施設計画全体を視野に入れ、建築工事以後の家具や什器の導入と施工、また既存施設からの移設まで、総合的なコーディネートを行っ
た(厨房機器とオーディオ機器は別発注)。部屋の広さや使い方に合わせた家具・設備の位置決めをはじめ、給排水・給排気・電気・ガス
等の建築との折り合いなど、各方面と打ち合わせを重ねて取りまとめを行うことにより、スムーズな搬入と施工、きめ細やかな仕上げを
実現した。壁面収納などの後付けのほか、遮音工事や完成後の室内空気質測定も行っている。また、教員と学生が共に使いやすいよう、
さまざまな要望を集約して検討を重ね、学園の要望に添った実習施設となった。今後のメンテナンスなども、合理的に行うことができる。

室内空気質測定も実施

社内専門スタッフによる自社所有の測定
機を用いての空気質検査を各室で実施。
ホルムアルデヒドやVOC等の測定が可能
で、完成後の安全性も検証した。



遮音工事にも対応

音楽演習室は遮音工事も
ともなう内装仕上げも実
施。壁にロックウールの吸音
板を、床はグラスウールを敷
き込み、防振ゴムも挿入し
ている。建築工事外の仕上
げ対応が可能。



壁の防音



床の防音

高度な専門機器から 細かな備品までトータルに納入



入退室電子表示板
教員の在室を表示。



ドラフトチャンパー
有害気体等の取り扱い
に必要な局所排気装置。



インタラクティブボード
書いた情報をパソコンに
取り込み、投写も可能。

収納棚や流し台などは全て後付けで、 きめ細やかな仕上げや耐震処理を徹底。



展示ケース
給食のメニューなどを展示。
LED照明を採用。



収納棚
食器や楽器など、収納物に合わせて設計、施工。



研究室 / デスク、タスクチェア、テーブル:VTP、
イス:デューン、収納棚 ほか



リズム演習室(2F) / イス:ピアノロ ほか
リズム運動など、音楽を体感して想像力や表現力を養う。講義で
はメモ台付きのイスを使用。



栄養指導室(2F) / テーブル:CTN2、イス:ルッシュ ほか
レイアウトは、対話型や通常の講義型など、授業内容に合わせて変
更可能。壁際にはノートパソコンを収納したデスクも配置。



多目的実験室(3F) / 調理台、実験台、丸イス、冷蔵庫、洗濯機 ほか
調理台のほか、窓際や壁面に実験台も備え、多目的に利用できる。



幼児教育実習室(3F) / イス:ルッシュ、電子ピアノ、ホワイトボード
ほか



実験室(3F) / 実験台、丸イス、ドラフトチャンパー、流し台ほか
様々な実験器具を備え、食物の品質管理など多様な
実験を行う。



研究室 / デスク、タスクチェア、テーブル:VTP、
イス:デューン、収納棚 ほか



リズムレッスン室(1F) / イス:ルッシュ、アイステーナWF ほか
電動折りたたみステージとスタッキングチェアを採用。多目的利用が
可能なスタジオ空間。



多目的室(3F) / テーブル:DT-15、イス:ルッシュ ほか
講義やゼミなど自由に利用するため、テーブルは移動や組合せ
が可能。



インテリアデザイン室(3F) / テーブル:DT-15、イス:ルッシュ、作
品保管庫 ほか



情報実習室(3F) / パソコンデスク:ACJ、イス:RC-151 ほか



造形室(4F) / 丸イス、収納棚、流し台 ほか

サロン・ド・パドマ

食事や休憩などで学生が自由に使えるラウンジ。“心の風景”となる芝生広場に囲まれた、平屋建ての広くオープンな空間は、イベントやゼミ、自習など多目的にも活用される。席数は合計400席を確保。グループでも一人で利用できるように、様々な形状と組合せのテーブルを用意している。また多目的利用を想定して、テーブルは簡単に移動できるキャスター付で、上下に4台まで積み重ねて収納できるタイプを採用した。学生たちがくつろげるよう、屋外の人工ウッドデッキには、高さを抑えた縁台やベンチも揃えている。

人感センサータイプのLED照明による節電、Low-Eガラスを全方位の窓に用いた放射による熱伝達の低減、校庭の芝生化など、省エネへの配慮をしている。さらにキャンパスが宇治市の広域避難広場に指定されていることもあって、停電時にも電気と熱を供給できる分散型発電ガスジェネレーションを採用した。こうした新しいエコ機能がキャンパスに整備されている。

多くの学生や教員が集まる場であり、学内コミュニケーションの促進や独自のイベントを想定して、200インチのマルチスクリーンと折りたたみステージを設置している。

マルチスクリーン マルチスクリーンは9面に分割されており、全面でも分割しても使用可能。ネット・TV・動画・写真など様々な種類の情報を、多様に組み合わせて上映できる。遠隔操作でキャンパス内の他スクリーンと一括管理も可能。



ラウンジ / テーブル:DT-15、イス:ルッシュ、アイスステージ、マルチスクリーンシステム、屋外ベンチ(テーブル付)、縁台
異形テーブル:アイネックスチェアブル、ロビーチェア:LSPA(スタッキング可能)、ローテーブル、ゼミコーナーテーブル:NST(パソコン対応)、イス:ナビット

